

優秀賞

初めてからあたり前へ

愛知県 岡崎市立上地小学校四年 川澄 梓

夏休みのある日、家族でお出かけする時の事。私は四人兄弟の一番上で、次に一年生の弟、一才と今年生まればかりの赤ちゃんがいる。

今回のお出かけは電車で行くことにした。休みの日ということもあり、たくさんの方が乗っていた。ベビーカーを引いているお父さんは、他の人のじやまになるからと言って席より離れたすみの方で立っている。抱っこひもで赤ちゃんを抱っこしているお母さんもその近くに立っていた。

空いている席を見つけ、私はそこを指差しながらお母さんに手招きをした。お母さんは最初は首を振ったが、申し訳なさそうにこっちへ来て、

「ごめんね。」

と言って座った。

「どうして空いている席を探さなかったの？」

と聞くと、

「もし席が空いてなかったら、赤ちゃんを抱っこし

ているから、席ゆずってほしいというアピールになっ
ているから申し訳なくて。」

それを聞いて、私はモヤモヤした気持ちになった。私も弟とその近くの席に座る事にした。

しばらくすると、電車の中はとも混んできた。立っている人も多い中、小さい子どもとお母さんが乗ってきた。親子は席を探しながら、つかまり棒につかまって立っている。

私は席をゆずらなきゃいけないという想いと弟を座らせたいという気持ちで戦っていた。

私はお父さんから電車でのマナーについて教えてもらったことがある。お年寄りや小さい子どもが席に困っていたらゆずる思いやりが必要だということ。弟にもそれを小さい声ですぐに教えて、親子に席をゆずろうと決めた。

しかし、どう声をかけたらいいのかとても迷った。断られたらどうしよう。私は悩みながら、言葉を選

んでこう言った。

「もうすぐ降りるので、席どうぞ。」

小さい子どもは嬉しそうに顔をお母さんの顔を見た。お母さんは、

「…え、いいの？」

と、申し訳なさそうに言ってくれたので、ペコと頭を下げて、少し離れた出入り口で弟と立っていた。

しばらくしてその親子が降りる時に、わざわざ近くに来てくれて、

「ありがとうね。」

と言ってくれた。

私はとても嬉しくて、心が温かい気持ちになった。こんな経験初めてだったけど、勇気を出して声をかけて本当に良かったと思った。

これからは当たり前前に出来るような人になりたい。

